

JWTC NEWSLETTER

Vol.31 No.3 December 2011

< JWTC 佐賀県視察研修旅行 >

SAGAの魅力満載！ 唐津・有田やきものの里と食文化体験

佐賀県首都圏営業本部のご厚意で、去る11月26・27日（泊2日）の行程で佐賀県視察研修旅行へ赴きました。参加したのは戸井川会長以下、JWTC運営委員会のメンバー総勢6人。朝早い全日空機で一路、有明佐賀空港へと向かいました。空港展望台からは、佐賀平野に広がる大豆畑と美しい有明海が一望でき、楽しい旅の始まりです。

まずは祐徳観光バスに乗り込み、「唐津くんち」で有名な唐津の街へ。唐（今の中国）へ向かう津（港口）を意味するだけあって、肥前名護屋城跡など歴史的な見どころが多い地です。唐津曳山展示場を見学後は、虹の松原で知られる唐津シーサイドホテルで佐賀名物・呼子のイカやイカしゅうまいに舌鼓。お腹が満たされたあとは、杵島炭鉱で一財をなした実業家の旧宅・高取邸を訪ねて往時の栄華をしのびました。

ご存じのとおり唐津は、茶席などでも珍重されるやきもの・唐津焼の産地です。高名な中里太郎右衛門窯を見学して絵唐津などを買い求めたあとは、玄界灘を望む波戸岬へと繰り出しました。屋台風な店構えのカウンターに陣取り、食欲もそそるサザエの壺焼きで旅情をかきたてられた私たち。日本の原風景・浜野浦の棚田を見下ろして小休止です。ふと見上げると「恋人の聖地」とありました。佐賀有数のパワースポットだとか。やがて日も暮れ始め、バスは創業128年、歴史ある佇まいの宿「洋々閣」へと向かいました。

夕食の席では嬉しいことに、国外最大の日本酒品評会でチャンピオンに輝いた美酒「鍋島 大吟醸」をはじめ「能古見」や「太閤」などの地酒が勢ぞろい。これも県の皆さんのおとりはからいです（人気酒だけに流通量の多い東京で購入したのだそう）。洋々閣のご主人の千夜一夜に耳を傾けた酒豪女



島田洋七原作「佐賀のがばいばあちゃん」の映画の舞台にもなった肥前浜宿で
写真提供：千葉千枝子

この度、かねてよりお世話になっている佐賀県首都圏営業本部のご招待をいただきJWTCの会役員と佐賀県を見てまいりました。まずは、首都圏営業本部の皆様とお世話になった佐賀県の皆様にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

佐賀県にはすばらしい自然と文化があり、歴史があります。しかし、それだけでは魅力ある観光はできません。その土地を愛している人たちに支えられてこそ輝いていきます。今回、自分の故郷・佐賀県を愛している多くの方々に出会い、その魅力を伝えていただきました。

この出会いを大切にしながら、私たちが佐賀の魅力を伝えるお手伝いのできたら何よりです。本当にありがとうございました。

会長 戸井川裕美子

性陣。出されたお料理も絶品でしたが、盛りつけた器も一流。ほろ酔い気分のままに併設「中里隆 陶芸ギャラリー」で、これまたお買い物です。食事をはさんで、あらためてギャラリーで眺めると、器の観方も変わります。

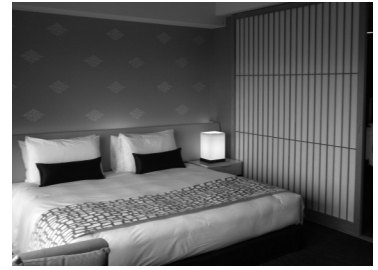


有田・トンバイ堀のある裏通りで説明を受ける参加メンバー
写真提供：千葉千枝子

二日目は、有田の街へと向かいました。耐火煉瓦を積み上げたトンバイ堀のある裏通りで、ぶらり散策したあとは、「青花」シリーズで知られるしん窯の工房へ。さかのぼること1830年、鍋島藩指導のもとに築かれた老舗の窯元で、青花匠といわれる伝統工芸士の方にご案内いただき、現代窯と昔ながらの登り窯を見学しました。私ごとですが、白地に藍の可愛い異人さんが染付けられた「青花」は、20年前から蒐集を続ける愛用のブランドです。念願叶って窯元を訪ねることができ、感激ついでに再々、お買い上げとなりました。

有明海を南下して、昼食に竹崎カニをたらふく食べたのち、佐賀特産のバラ栽培農家や、日本三大稲荷の一つ祐徳稲荷神社、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された肥前浜宿酒蔵通りを見学しました。充実の二日間に、気がつけば手荷物だらけ。旅の女傑プロ集団は、よく食べて飲み、たくさん買って佐賀の魅力を満喫です。末筆となりましたが、佐賀県首都圏営業本部の西岡剛志さま、熊本久人さまには心より御礼を申し上げます。佐賀ファンの先頭に立って、売れる仕組みを作りたく思います。 千葉千枝子 観光ジャーナリスト

「ザ・キャピトルホテル東急」見学会



ザ・キャピトルホテル東急。JWTC第3回の勉強会は、このホテルが新たな歴史を刻み始めて1周年という記念すべき日に開催された。

客室は、もっともベーシックなデラックスルームでも45平米というゆとりある広さ。ドアを開けると、目の前には入り口と客室を分ける障子が目に入る。出迎えてくれるのは小さな生け花。和の風情と軽やかな遊び心を感じる。壁一面の窓から東京のパノラマが広がる。国会議事堂や首相官邸までも見下ろせ、部屋によってはなんと日枝神社が一望の下。「パワースポットだわ」と今時の女子のように喜ぶより先に、「お正月、受験シーズン、そして場所柄、選挙の時期には高い値段で売れそうだ」と考えを巡らすのは旅行業界の宿命か。

アメニティはホテルオリジナル。ペリカン石鹸とのコラボレーションで、桜や竹の香りにしているという和へのこだわり。日本人にはもちろんのこと、海外からのお客様にもゆったりと寛いでもらえることだろう。

キャピトルといえば1966年のビートルズ来日の舞台でもあ



挨拶をされる笹木シェフ

る。今回の新装に当たっても、このスターの思い出を随所に残すよう心掛けたという。記者会見が行われた「紅真珠の間」のシャンデリアは、本物の真珠を移し替えられ、新しくなった宴会場は「鳳凰の間」の名が冠されている。

見学の後は、オールデイダイニング「ORIGAMI」にて懇親会。前菜からメインまで新鮮な野菜がたっぷり楽しめる。久しぶりに集う会員同士の会話は弾みに弾み、このラグジュアリーなホテルの品格を落とすことがなかったかと今更ながら反省をしている。今回の勉強会に際し我々を温かく迎えて下さった富井チーフ、笹木シェフには感謝を申し上げたい。

ロビーではホテル1歳の誕生日を祝うハーブの演奏会が行われていた。美しい音色に心を残しつつ、雨に煙る溜池山王を後にした。

《参加された方のご感想》

- 旧ヒルトンのイメージから変わった和を主体とした新しいホテルを見学でき、落ち着ける部屋に感激しました。見学後の昼食も値段内容ともに満足できました。(坂本康子)
- 開業1周年後がどれだけ変わったか知りたかったのですが、オリジナルオープンのコンテンツを大事にされていることを知り、皆さんが頑張っておられ嬉しく思いました。日本のテイストを入れ込んだサービスはこのまま続けてほしいもの。(小峯韶子)
- ずっと見学したいと思っておりましたので、やっと来れて嬉しく思っております。(早川ミチ子)

勝村 良子 財団法人 国際労働財団

●JWTC懇親会報告●

歴史の街「足利」学びとショッピングの旅

11月23日、JWTC懇親会“貸切バスで行く歴史の街「足利」学びとショッピングの旅”は、会員19名とビジター3名の合計22名で快晴の新宿を定刻に出発しました。

最初の観光箇所は、「栗田美術館」。「三大陶器まつり」「足利グルメグランプリ」が開催中で、3倍楽しむことができました。

栗田美術館は、創設者・栗田英男氏が20歳の時に古美術商から伊万里染付唐草文徳利を3円で買い求めたことをきっかけに収集を始められて生まれた伊万里、鍋島を所蔵する世界屈指の美術館です。栗田氏は「陶士のほとんどの人達は芸術の何たるかを知らない。ひたむきに物を作る事に徹した純粋無欲な心によって、その作品は、到底及ばない森厳な域に達している」「歴史より何より、作品そのものの価値を第一にする」という思いから収集されたそうで、陶磁器の迫力だけではなく、300年の時代の流れが渦巻く不思議な空間でした。

昼食で伺った厳華園は、旧家中島家（足利家）

15代400年の歴史ある館でした。ゆったりとした気分で美味しいお料理をいただき、紅葉の下、散策も楽しませていただきました。厳華園の門を抜けるとすぐ右手に立派な「楷の木」が美しく黄金に色づいて風に揺れていました。「楷」は中国では模範の木、日本においても書体の「楷書」の語源とされていて、訓は「ノリ」、意味は「つよくま



写真提供：千葉千枝子

っすぐ」「てほん」です。日本では非常に少ない木として珍重されています。

お食事の後は、「大麦工房」の新店舗で、大麦を利用したお菓子づくりの話と買い物を楽しみ、足利学校と錢阿寺では、現地ガイド宮崎昌夫さんのユーモアあふれる説明に、自学自習の「日本最古の学校」に入学・卒業できた気分で見学することができました。そして最後は、佐野プレミアムアウトレットでショッピング。

戸井川会長が昼食時に「旅は、食べる・見る・買う・そして、天気と仲間。この5つのポイントが揃うと最高です」と挨拶されましたが、まさにポイント全部が揃っていた日帰りツアーでした。

星 恵美子 スタープランニング



厳華園の門の前で

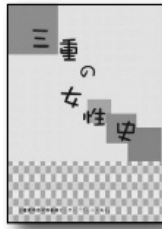
◆第4回勉強会報告◆

『三重の女性史』 編纂に関わって

講師：木下弓子氏

日時：平成23年10月30日（日）

会場：ホテルキャッスルプラザ 日本料理「佐久良」



『三重の女性史』編纂に関わられたJWTC名古屋支部会員の木下弓子さんよりお話を伺いました。

明治以降の三重の女性史を発刊にあたり「愛知女性史研究会」に所属していた三重県在住の木下さんにお声がかかり、歴史大好きな「木下家」では自然な流れでお引き受けされたそうです。

“ガツガツしないのんびり屋”という県民性なので他県に比べ女性史が少ない県ですが、教育界・医学界・生活改善・地位向上をはじめ三重の女性の代表ともいえる「海女」を取り上げています。

編纂期間はなんと5年。ローカル新聞にて資料収集を重ね、手探り状態で調査・掘り起こしを行うなど地道な作業から始まったそうです。木下さんの担当は新聞での資料収集および活躍された人の聞き取り調査でした。

◎吉田うたさん＝そうだ！と思ったら笑顔で突進し続ける。（日本母親大会にて四日市公害の現状を訴える・乳児共同保育園設立など）

◎山本和子さん＝賃金差別裁判と闘った12年8カ月。（仕事・研

修・昇給・賃金差別との戦い、解放）

◎小嶋千鶴子さん＝ジャスコを人材育成と愛情で支え発展させた。（イオン会長の実姉 S46年欧州労働時間研修ツアーでドイツでフレックスタイムの母といわれるケメラール女史と出会い『パートタイム制度』を導入） など

先人の方々は戦争・差別と闘い、また生活改善を行ってききましたが、現在では変化が出てきて自分の意思で運命を創っていける環境が整いつつあります。先人の方々に恥じないようにパワーあふれる生き方を！と再認識いたしました。

今回の講師・木下さんはすでにそのパワーを頂いていて毎日が前向きで、今関わっていることは「三重の女性史」「菰野郷土史」研究会、「あいちの会」取りまとめ、そして皆様にもおすすめしたいという「自分が生まれたころ・育ったころ・両親祖父母の時代・戦争等々」を調べ“自分史”をめぐるセンチメンタルジャーニー”などだそうです。



興味・趣味が多く話は尽きませんでした。好奇心を持つことが何よりのパワーの秘訣（そして若さの秘訣）だと思いました。

三宅 博子（三重県人）
日通旅行



“ 預人通帳 ”

名古屋支部 加藤真知子（名鉄観光サービス(株)）

「預人通帳」。この言葉は、元植物園園長S先生からお教いただきました。

18年位前、ニュージーランド航空グループ会社に転職して間もない頃で、ニュージーランドについての情報量も経験も少ない時期でした。ある日オークランドで開催されるフラワーショーを知っているかと旅行代理店の知人から問い合わせがあり、必死で政府観光局や園芸関連の情報を集め、フラワーショー開催日に合わせた企画提案を行いました。翌年16名のニュージーランドガーデンツアー（団長S先生）がまとまり、私は同行をお願いしました。

ニュージーランドはガーデンシティ「クライストチャーチ」の美しい街並みや個人庭園も有名で、私自身の研修になると吐嗟に考えた行動です。



お客様とロトルアでマオリコンサート後に

S先生の植物談義は機知に富んだ内容で、私にとって一生の財産ともいえる貴重な体験となりました。また人生は「お金」ではなく「人」との出会いを大切に、自分の中の引き出しを増やし、活用することが本当の豊かさであると話されました。以後、私のモットーは「預人通帳」の積み立てとなり、その後もS先生にご支援ご指導を仰ぐ機会に恵まれました。

これまでの人生を振り返ると本当に大勢の方々に支えていただきました。

ある会社では入社3カ月で営業担当となり経験もなく悩みましたが、前職（アジア系航空会社）で関わった代理店担当者を訪ねてコツコツ歩く試行錯誤のセールスを開始しました。オーナーが男女の差別なく処遇して下さる方で、「メンター」といえる存在となり感謝しております。営業に携わることであらゆることにアンテナを張り感度を磨く必然性が生まれました。お給料をいただきながら勉強できることを幸せに思います。

私は小学生時代に転校が多くネガティブ思考の子供でしたが、不遇と思える転校生時代に今の逞しさを培ったと畏友Jさん（地域振興の企画コーディネーター）に評されます。Jさんは私の生き方を「サーカスの綱渡り」とも言います。自分では氣付きませんが周りをハラハラさせなが

ら平然と通り過ぎることが多いそうです。

Jさんとの親交はニュージーランドに取材を兼ねた旅行のご依頼がきっかけです。ご要望のレベルが高く考え込みましたが、現地の知人の機転で取材の適任者や場所の確保ができて、彼女から高い評価を頂きました。このときの手配で私にも新たな発見とネットワークの拡がりももたらされました。



畏友Jさん（右）と

4年前から旅行会社の留学部門に勤務しております。ポジティブで魅力あふれるシニアから短期研修でも成長めざましいジュニアまで、幅広い世代のサポートを行います。以前に産業カウンセラーの勉強をしましたが、人に深く関わる留学担当となり、そのときの学びや気づきが活用できる場面もあります。

JWTC名古屋支部入会は故岡田靖子様（カナディアン航空）とのご縁でした。東京・名古屋のメンバーとカナダや米国のIFWTO会議に参加の旅行も楽しい思い出です。

これからは「サーカスの綱渡り」的人生を笑顔で過ごして、「預人通帳」の出し入れを模索することが課題と思います。

今回は総務部の有元恵子さんをお願いいたします。

◆ 運営委員会だより ◆ 9月～11月

□総務部□

- 7月29日～東北応援ツアー交流費用抛出の報告
- 総会の日程&会場 2012年2月25日(土) 東京ウィメンズプラザ

□会員部□

- 11月23日親睦会 参加申込状況報告
- 2012年活動計画 親睦会6月実施に向け、日帰りプランで検討中
- 名簿は1月下旬に会員にデータ確認、発送は4月ニュースレターと同時

□事業部□

- 年3回の勉強会を2回にする
- ホテル見学会(ザ・キャピトルホテル東急) 報告 全体的に好評
- 2012年度の活動計画

□広報部□

- 2012年度の活動計画 ニュースレターの紙面の工夫などを検討

□名古屋支部□

- 2012年度活動計画

□その他□

- 8月特別勉強会(「健康な肌を保つためになる話」) 報告
- 規約改正委員会 第1回規約改正委員会開催(11月1日)
- 佐賀県視察 11月26日～27日 佐賀県首都圏営業本部よりご招待
会長・副会長・各部長が参加

★新入会員紹介★

会員 No.432

桑垣 美砂子

株式会社二期リゾート



シティホテル、ツアーオペレーターを経験した後、那須の二期倶楽部で5年ほど現地におり、現在は東京オフィスに勤務しています。那須生活では、自然の素晴らしさに魅せられ、写真を撮ることに開眼しました。

入会前に参加した勉強会では、ビジター参加にもかかわらず、先輩会員の皆様に温かく迎えていただき、充実した、とても楽しい時間と、たくさんのパワーをいただきました。ありがとうございます。

この度JWTCへ入会の機会をいただき大変光栄です。皆様との交流を通じて、いろいろなことを学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

JWTC 総会のご案内

第32回総会を下記の通り開催いたします。

日時：2012年2月25日(土) 14時より(予定)

場所：東京ウィメンズプラザ(表参道)1階視聴覚室

*総会終了後、懇親会を予定しています。

詳細は追ってお知らせいたします。

♥会員の皆さまへ お得な情報♥

南極へ行くなら今!

話題の「南極クルーズ」を会員特別割引価格でご提供します。

ドラマ「南極大陸」が注目されている。今の仕事のきっかけを作ってくれた第1次越冬隊タロ・シロの犬ぞり担当の菊地徹先生が生前書き残したエッセイを遺族の方より頂いていました。この時期に合わせてHPに掲載してみると、通常の10倍以上もアクセス数が上昇。いかに多くの人たちが南極での犬たちに関心があるのかがよく分かりました。

その当時の時代背景、夢を南極に託した子供たちを始め、民衆の国家的大イベントの様子がドラマを通して伝わってきます。また、ちょうど100年前、アムンゼンやスコットと同時期に南極点を目ざした白瀬巖も忘れてはならない日本人です。

地球上に唯一残る大自然を現在では、観光で訪れることができます。その仕事に従事している幸せを感じています。

今回、JWTC会員の皆さまに、とっておきの南極クルーズを特別割引価格でご提供します。ぜひ、ご参加ください。

株式会社トライウエルインターナショナル 田島和江



南極クルーズ JWTC会員特別割引(2012年1月、2月限定)

- 南極半島&サウスシェットランド諸島 11・12日間
- 南極圏、南極半島&サウスシェットランド諸島 15日間
- 南極半島、フォークランド(マルピナス)諸島&サウスジョージア島 20日間

* JWTC会員特典として定価の30～40%引きにて承ります。

詳細は田島会員までお問い合わせください。(☎03-3498-2926)



2011年は予想の域をはるかに超越する激動の(あえて平易にいうならば「はじめてづくしの」)一年であったと、冬らしくない温暖な師走の昼下がりにその激流をふりかえる。

日本人にとって物心両面に大きな傷を残した3.11。

世界に目をむければ世界的な経済危機の嵐に、誰がイタリアまで破産すると予想しただろう。

ずっと信じてきた年金制度も、いまでは破綻することが公然の認識となり、この憤りをどこにぶつけていいのかわからない。

われわれ旅行業界にとっても、不景気と震災のダブルダメージにより辛抱を試される一年となった。営業の工夫と知恵、顧客満足度だけでは延命を語れず、話題の中心はいやおうなく経済的な体力をどう維持するかに及んだ。

明るいニュースのない一年のように感じるが、見方を変えると従来のありかた、システムを根本から刷新する途に就いたといえるか。

個人や自治体の小さい単位では変革にも限りがある。いまはそこを大きく壊して全体的に作り直すときであると肝に銘じ、精進するのみである。

ヒンドゥー教の神シヴァは破壊の神であると同時に創造をもつかさどる。破壊なくして創造たりえないのはよく理解できるが、それにしてはなんと痛い試練であろう。(S.I)